



# 妙たえ の光ひかり

通刊42号 復刊21号

1997年6月28日(季刊)

角田山妙光寺 発行  
新潟県西蒲原郡  
巻町角田浜 〒953  
TEL 0256-77-2025

## ザクロの花

漢字では柘榴と書く。イランが原産地で、日本には平安時代に中国から渡来したらしいとある。秋になる赤い実はご存じのとおり。六月に咲く花は鮮やかな朱色。

吉祥果とも書くほど仏教に縁が深い。鬼子母神(きしもじん)という女神がこの実を好み、そのお像が必ず手にしている。この神様はもと鬼の妻で千人の子がいたが、さらに人の子を取っては食うので、お釈迦様が戒めのためにその千人目の子供を隠した。嘆き悲しんだ鬼の妻に対し、子を食われた他の母親の気持ちが変わったかと論じたことで、以後仏教に帰依し、安産と子育ての神として祀られるようになった、というインドからの説話。

この実が赤子の血の色、味も似ていると鬼子母神が好んだとか。たとえ鬼の母親といえども、何人いようが我が子は愛しいもの、という話に共感する母親は多く、鬼子母神信仰は江戸時代から盛ん。ことに日蓮宗ではご祈祷の本尊として拝まれている。

先頃訪れた中国西安市では市の花とかで、この季節市内各所で咲いていて印象深かった。

# 無財の七施

小川英爾

新潟市神山の池田由市さんが七六歳で亡くなられた。笑顔が優しく、クリっとした目でいつもニコニコして笑い声がことのほか大きかった。酒が大好きで飲むとますます陽気になって、周囲を和ませた。元々のんきな性格でエピソードも多い。定年退職してからは趣味を活かし、三輪バイクに乗っては、無償で知人の家の庭木の剪定をしてまわった。私が暮れのお経に何うと、いつも池田さん夫婦以外に近所のお客さんがいる。ストーブを囲み、お茶に豆をつまんで楽しそうに話はずんでいて、ついつい引き込まれ長居してしまった。心なごむ思い出が残る。

世の中ボランティア活動が盛んである。阪神大震災での老若男女、個人から各種団体の活躍はすごかった。最近では日本海ロシアタンカー重油流出事故での活躍が耳に新しい。みじかなところでも、家庭の主婦の高齢者への援助、あるいは小中学生も学校を中心に大小さまざまな活動をしている。こうした動きが自発的によく日常的に行われる社会は心地よく、日本も精神的に豊かになってきたのかという気がしなくもない。

しかしその一方、阪神大震災で、ある宗教団体の看板を大きく掲げた活動が、宗教の宣伝だと批判された。重油流出事故では、各地の海岸に押し寄せた重油の処理に、いてもたってもいられずに個人で駆けつけて、無理がたたって亡くなった人がいたというのに、行政職員が職場ごとに勤務時間中に参加、この間も給与が支払われていて疑問視された所があった。こうした目でみると、学校で実施されるボランティア活動もどこまで本人の自発性が基本にされているのか、心配になってきてしまう。もちろんこうしたことに目くじらたてて、ボランティア

活動をとやかくいうつもりはない。要は事の大小に関係なく、相手と自分の関係にこだわらず、してあげたいことを自発的に気持ちよくおこなえることがボランティアだといえるのだろう。

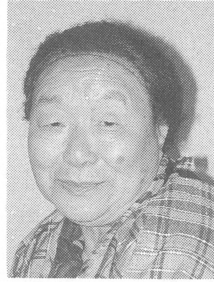
実は仏教では「施し」という言葉がこれにあたる。「お布施」も元来は信者から僧侶に対して、法衣のための「布を施す」という言葉からきている。現在は現金になつてから「財施」というのが正確になるが。ここでは一般に言う上の者から下の者へ恵んでやるという意味の、「施す」という言葉のイメージはない。僧侶の側からは信者に対して、仏さまの教えを説いて施す「法施」がある。いずれも強制されたり、形式化したりしてはいけないのだが……。

財施をする財産もないが、法施をする知識もないときはどうすればいいか。仏教では三つめに無畏施（むいせい）といって、無長（不安感をとりのぞく、心の安らぎ）の施しを教えている。「無財の七施」ともいって、お金が不要の施しの方法を具体的に、「優しいまなざし、優しい笑顔、優しい言葉、優しい心、席を譲る、労働奉仕、宿の提供」の七通りを説く。池田さんの葬儀にのぞんで、改めてこの無畏の施しの尊さ、ありがたさを痛感した。新潟市の佐藤さんは、安穩廟に埋葬された夫をお参りすると、時間のある中で周囲の雑草取りをしていかれる。また近所でひとり住まいのSさんを尋ねてお茶飲みをしたり、運転のできないSさんを妙光寺まで乗せてきてくださっている。また、私が檀家にお経に伺った際、農家で畑の野菜を、漁師の方からは獲りたての魚をいただくことが多い。行事には多くの方達に働いていただく。昔からお寺はこうした人の関係の中で成り立ってきた。

池田さんの遺影として飾られた写真が、優しそうに微笑んだとてもいい顔をしていられた。「探した写真の中で一番いいのを選んだけど、何年か前にお寺の団体旅行で佐渡へお参りに行ったとき、ご前様と一緒に撮った写真だよ」との、家族の方の言葉が嬉しかった。

# 「ご判様」行事の岩屋番を十五年

石田 シズさん（80歳）



石田さんは毎年四月二八日の行事「ご判様」で、七面大明神をお祀りする岩屋の番を、前の人から引き継いで十五年になる。薄暗くて肌寒い岩屋に一日籠もるのは大変で、今の横沢千枝子さんとコンビを組んでも五年になる。ロウソク、練香の火を絶やさないうような番をし、参拝の人にお酒をふるまったり、話しかけたりするのが仕事。「今年は温かくて楽だったが、平日のせいかお参りの人が少なめだった。去年から蛙が住んだのか鳴き声が響くから、お賽銭をいっぱい上げてカエル

って、冗談言うとお参りの人が喜んで「ユーモアたっぷり楽しい人柄で皆に好かれている。

角田講中の最高齢者だが、元気で毎月のお経会を欠かすことがない。いつも思いがけないときに、ひょうきんでそれで含蓄のある冗談をポツと言っただけを大笑いさせる、大事な人だ。しかしその人生は「思い出してもいいこと三ぶ、あとはつらいことばかり」という大変さだった。

石田さんは村外に生まれ、二歳で母親と死別して角田村の子供のない家に養女に出された。その家ではその後五人の子供が生まれたが、平等に育てられて幸せだった。十八才で養母に連れられ「毒消し」葉の行商に関東へ出た。翌年には結婚を約束させられた今の家に「足入れ」をし、長男誕生で四年後

に正式な結婚。その子を抱えて東京、横須賀と行商に歩いた。

戦争が始まって夫は出征、南方に行つて生きて戻るとは思えない中で、子供を育て、夫の両親に仕えながらわずかな農地を耕してきた。五年後夫は復員したが、マラリヤに患ったせいかわ病気がち、それでも協力して畑の野菜や漁師から買った鯛を売り歩いた。煙草栽培では、ろくに寝れずに乾燥機の火の番をするのが二カ月も続いた。

痴呆の姑の介護と看取りの次は、夫の五年間に及ぶ入院の看病と看取り、蒲団でゆつくり寝ることがほとんどなかった。ようやく楽になったかと思つたら、歳をとって足腰が痛い。

「今の楽しみは嫁に乗せてもらったままの温泉と、お寺参り。その嫁も働いていて大変だから自分のご飯は自分で作る。運動のために、買い物と医者へは三輪自転車で行くが、この健康はありがたい。できればあと五年は生きて、ポコッと死にたい。それまでお寺参りは続けたい。こんど生まれ変わるときは、もうちつと楽しみたいナ」と。三男三女に孫十三人。



## 本堂建て替えを決定しました

平成九年度の妙光寺護持会々報を別に配布し、昨年度の合計決算と今年度の会計報告をお知らせしています。松枯れ対策費、教団の立教開宗七五〇年特別賦課金の借入れが重なって、苦しいやりくりですが、会費の値上げはしません。従来どおり一百万円の年会費（墓地だけの方五千円）を、お盆までにお願いたします。

安徳廟三基目の建設に伴い、周辺整備を進めています。町道との境界を明確にしてもらい、土手を築いて桜の木を増やします。また題目堂の脇を流れ、梅雨どきには氾濫することもある御坊沢を、町当局と共同で改修します。こうした作業に関わって生じた測量、登

記簿上の公図変更等も、町の担当者の尽力で順調に進んでいます。

宗教法人法の変更で、基本財産を明確に記載、報告することが厳しく義務づけられました。とかく曖昧だったこれまでの妙光寺の基本財産管理ですが、こうした作業を通じて整えていきたいと考えています。

懸案の本堂建て替え工事ですが、三月の役員会で実施の方針と基本案を決定しました。これを『本堂・祖師堂建て替え工事、資金勸募のお願いと事業計画』という印刷物にし、地区毎に説明会を開催、提案とご協力を願っています。

現時点で開催した全ての地区で

「建て替え止むなし」のご意見の上、個々の寄付金額の集計に入りました。七月中には残りの地区の説明会も終わる予定です。新潟市、県外等、説明会の開催ができない地域の方々へは、個別の説明か郵送で願います。九月には寄付金額の総計を出し、実施が本決定されれば十月からの積立開始、細部の検討に着手、という進行を想定しています。

二百三十年ぶりという大事業で、費用も大きな額になります。しかしあくまでも寄付が大前提で、割り当てという考えはありません。しかしそれだけに実現可能か否か、皆さんのご協力に頼んでいます。寄付金総額が計画金額に到達できなければ、事業計画は中止し、今後の妙光寺の運営について再検討することになります。

大変厳しい経済状況下、誠に心苦しいお願いですが、精一杯のご協力いただければ幸いです。

## 里山の花風景（春から初夏編）

### 桜のいろいろ

新潟西高校教諭 藤田 久

境内が桜の花で満開の頃、周囲の山肌はうっすらと芽吹き季節を迎える。なかでもぼつんぼつんと、白くぼうつと色付くのが山桜である。けれどソメイヨシノのような派手さはない。花には緑が混じっていて落ち着いた趣があるのでカスミザクラだとすぐわかる。葉が花と同時に開くのが特徴である。

うすべにに葉はいち早くもえいで咲かむとすなり山ざくら花 若山牧水

ところで斜面には目立たない山桜がもう一種咲く。これはオクチョウジザクラといい、高木にはならず、花色は白く、がくの筒が他の桜に比べて細長いのが特徴だ。花数も少なくうっかり

すると見過ごしてしまいやすい。時期としてはカタクリの咲く頃には咲き、カスミザクラより一足早い。

### キイチゴ狩り

林内が明るい季節のうちに尾根伝いを歩こうと斜面を登って林内へ一歩足を踏み入れた。ところが行く手をモミジイチゴの低木に阻まれる。細い幹に、似合わない大きめな白い花をつけ、やがてオレンジ色の果実に育つ。キイチゴといわれ、甘酸っぱく美味なものでジャムもつくれる。だからといって誘われてキイチゴ狩りにいくには勇気がいる。モミジイチゴは桜とともに「バラ科」に属し、文字通りイバラの藪道であるからだ。幹の刺のため林内から

出てみるとトレパンからは何か所も糸がときほぐれていた。

### アンニンゴも桜

五月に入ると他の桜と違う形の白花をつけるのがウワミズザクラだ。花が穂のようになっていて瓶洗いのブラシのように見える。

緑の蕾を塩漬けにして食する地域もあり、桜の香りがふんだんにする。秋には実が赤や黄色に熟し、ヒヨドリなどがよく食べにくる。新潟県内では、この実をアンニンゴともいい、ホワイトリカーにつければ赤いアンニンゴ酒になる。

ウワミズザクラの高木があればホオノキやコナラがあり、雑木林を形づくっていることが多い。

### 雑木林の衰退

かつて「おじいさんが山へ芝刈にくく」という行き先が、低山地や丘陵地のいわゆる里山の雑木林であった。これは燃料に薪や炭を使用していた頃の

お話である。しかし昭和三十年代に燃料革命が起き石油、ガスが普及して以来、雑木の伐採や落葉かきが行なわれなくなつて久しい。

里山用材を得るために、切り株から芽生える“ひこ生”を考慮した伐採方式がとりいれられ、十年から二十年もすると元どおりの雑木林が再生されていた。営林署が近頃よくやっていた皆伐方式とは大違いである。このリサイクル方式に先人の知恵がうかがえ、現代人も自然の利用の面で学ぶ意義が大いにある。今でも、林内に株立ちが残され当時を物語る場所がある。だから手入れの進んだ里山にモミジイチゴの藪道などあるうはずがない。

昨今は、マツ枯れが進み、しかも皮膚かぶれを起こすヤマウルシの低木もよく育ち、遊びの場としての里山が消えつつある。

### 里山の復活

寺の隣接地の一面が、一昨年、伐開されヤダケの藪が開放された。翌春に



ヒトリシズカ

なつてめつたに見かけない春の草花が次々と出現し感激したものである。

白のニリンソウ、黄色のキケマン、紫のエゾエンゴサクやムラサキケマン、タチツボスミレ、それに白い花が目立たないヒトリシズカなどが群生していた。初夏になると白のオドリコソウが林の周囲に群生する。花は対生する葉のつけねに六から九個もつけ輪生しているように見える。

春の角田山登山道沿いに、これらが見られないわけではないが、これほど見事なお花畑はない。好きなのはヒトリシズカだ。葉は茎の上部に二枚ずつ対生し、相接して四枚まとまって出ているように見える。この茎の上に一本の花穂を出す。花はがくも花びらもないが、花糸である雄しべが白くて可愛らしく、名前も優雅であるからだ。花穂が二本あるとフタリシズカになる。

このまま放置しておけば、より背丈の高い植物が生え広がり、やがてこれから春の草花は消えてしまう運命にある。このような風景は里山の下刈りを行なっていた頃に普通に見られたものがある。したがって手入れがなされない限り里山の雑木林を守ろうなどとは容易にはいかなないものである。人々の生活とかかわつて雑木林は成り立っていたからである。

一人静殖えてしずかに咲き揃う

山田みずえ

# 草堂寺を訪ねる中国団体旅行 充実して無事故で帰国

妙光寺初めての海外団体旅行、「中国草堂寺参拝と上海、蘇州、桂林、西安五泊六日の旅」が、無事終わりました。三十名募集のところ三十三名の申込があり、直前のキャンセルのため三十名の旅でした。その構成は檀家、安穩会員、その身内や友人という混成団でしたが、皆さん和気あいあいできつに賑やか、楽しい旅でした。

今回初めてバスポートを取ったという方が半数以上で、出発前に緊張のあまり医者掛かりした人もあったとか。心配された食事もまったく問題なく、機内食も入れると一日四食をたいらげた人もいました。移動の多い強行日程でしたが、天候にもめぐまれて全員無事、元気に戻りました。なかでも女性陣の元気はすごく、買い物、ショー見物にはとくに迫力がありました。

飛行機の遅れ、ホテルでお風呂の湯を部屋に溢れさすなど、いくつかのハプニングも楽しい思い出。最終日には「もう二、三日旅を続けたい」と言う声が多くありました。平均年齢六十台後半、ひとえに参加者同士の助け合いの賜物と思います。

「せっかく取ったバスポートだから元気なうちにまた行きたい。次回はいつ? インドもいいね」というこれも女性からの声に住職もびつくり、でした。

## 中国旅行に参加して

西川町 寺尾 義夫

六月五日、草堂寺参拝中国旅行団一

行三十一名は成田空港に集合、上海、蘇州、桂林、西安五泊六日の旅に出発

した。

三時間の空の旅で十五時五十分上海  
空港到着。気温三十六度とものすごく

暑く、先が思いやられる。バスにてレ

ストランでの夕食を経てホテルに入

る。翌日、庭園と運河、そしてなによ



草堂寺で



りも寒山寺のあることで知られる古都、蘇州を観光、夕方には空路桂林に向かう。

天候は一変して霧雨けむり、ぐっと涼しくなった桂林の町は緑したたる中であつた。翌朝からの観光はまず日本とはスケールの違う鍾乳洞へ。続いて期待の一つ、漓江(りこう)下り。昼食をとりながら四時間の船旅は快適そのもの。船上から眺める対岸の山々は、おりからの雨と雲にかすみ、まさに山水画の世界そのもので、すばらしいの一語につきる。

夜、桂林空港から西安に向かうが飛行機が遅れ、西安のホテル到着が翌日の午前二時。明けて四日目は少しゆっくりに出発して、玄奘三蔵法師ゆかりの慈恩寺、大雁塔へ。塔の最上階高さ七十四メートルまで登る人が多く、皆さんいづれも健脚ぞろい。基盤の目状に区画された西安の街が見下ろせた。続いて西安の街を取り囲む城壁の西の城門へ。ここは東西文明を結ぶシル



### 成田空港で

クロードの出発点で、この道の先はローマに続いていく。静かな霧囲気が、城壁、城門とともにほるか古代をしのばせてくれた。昼食に本場の餃子をいただく。味

はさすが、言うことなし。

午後、今回の旅の主目的、草堂寺を訪ねる。西安市内から一時間あまりの車窓の風景が、日本の戦前を思い出させる農村風景で、実に懐かしい思いで一同話がはずむ。草堂寺到着。門前に御任職と副任職、それに信者の方達が十人ほど出迎えてくださる。挨拶を交わしたのち、鳩摩羅什(クマラジュウ)法師をお祀りする記念堂へ案内していただく。



### 草堂寺のご住職を囲んで

が依りどころとす  
『法華経』を翻訳された、などの説明がされた。  
お堂の前で記念写真を撮

法師のお像が安置された記念堂に参集、草堂寺のご住職以下数人の僧も交えて法要を営む。御前様の読経に唱和、全員でお題目を唱える。おわりに御前様が、鳩摩羅什法師に感謝の意を称え、草堂寺の復興とさらなる隆盛、旅行団の道中安全を祈念された。

法要後お像の前で御前様から、鳩摩羅什法師は玄奘三蔵法師がインドから持ち帰った經典を、中国語に翻訳した著名な三人の一人で、日蓮宗

り、副住職に境内を案内していただく。接待所でお茶と採りたての果物をいただき休憩、ご住職のお話を伺う。現在本堂を新築工事中で、二十名ほどの僧侶がおられるとのこと。今後さらに、若い僧侶を養成する学校等も作りたいとお話もあり、八十歳というご高齢にもかかわらず、その仏教に対する情熱に頭のさがる思いだった。

このご住職と、巻町から参加された最高齢七十九歳の小林與志英さんが、とてもよく似ておられてまるで兄弟のようだと、なごやかに盛り上がり上がった。信仰熱心な小林さんのこと、こ



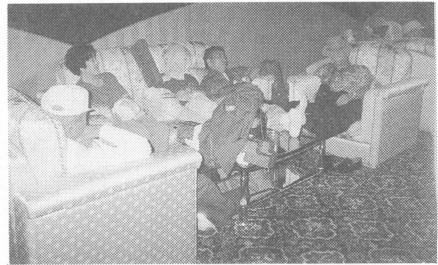
20種類の餃子が次々に出てきた

れもご縁と思う。予定時間を越え、再度お訪ねしたいという気持ちで草堂寺を後にした。

ホテルに戻って

の夕食は「長安の夕べ」と題して、シルクロードのオアシスの雰囲気を出した庭での食事。ウイグル族の民族音楽に踊り、シシカバブという焼肉の他ラーメン等々を楽しんだ。

五日目西安最後の観光は、秦の始皇帝の巨大な墓跡「兵馬俑坑」と、楊貴妃とのラブロマンスの地「華清池」へ。二千年前の奇跡をまのあたりに見る思いで、そのスケールの大きさに驚く。午後には空路上海へ移動し、友誼商店



桂林空港特別室で2時間遅れの飛行機を待つ

で買い物やし納め。上海の街の華やかな夜景を車窓から眺める。

六月十日、上海より成田へ二時間四十分で帰国。東京駅で関東地区から参加の皆さんとお別れし、事故もなく、楽しい、思い出の多い五泊六日の旅を終えた。最後にこの旅行を企画、主催された御前様、旅行中いろいろとお世話いただいた添乗員の福田さん、本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。

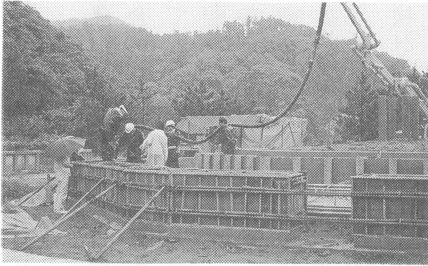


大雁塔前でガイドさんの説明を聞く

## 三基目とフェスティバル安穩

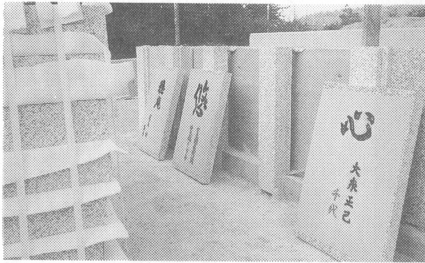
### 三の廟建設工事の進捗

安穩廟三基目の工事が順調に進んでいます。許可の遅れが影響して、予定の七月末日の全完成は難しいかもしれませんが、お盆前の納骨には支障がないようにします。八月一日のお盆法要に合わせ、開眼法要を



雨の中のコンクリート打ち

午前十時半から行います。ぜひご参加ください。既に埋葬されている方で、この日個々にお経を希望される方は、朝五時半から随時受付しています。お申込も三基目の受付開始から一年ですが、四十件になります。五月に朝日新聞の全国版一面でカラー写真入り



墓碑板はめ込み作業

掲載があったこともあり、県内外からの問い合わせ、お申込が続いています。一基、二基ともに雑草の繁茂が思いのほかひどく、対応策を研究中です。なるべく自然に近い形で管理していきたいと考えていますが、その方策に苦慮しています。

### フェスティバル安穩のご案内

今年も「第八回フェスティバル安穩」を八月二十三、四日（土、日）に行います。目的は、埋葬者への合同祭祀と会員、檀家、地域の人達、趣旨に賛同する人達との交流、そして安穩廟と妙光寺の宗教世界への理解を広めることです。

今年には映画監督の鈴木清順氏をゲストにお招きしました。七十四歳、飄々としたお人柄はとても魅力的で、昨年の新藤兼人監督とはまた一味違ったお話が伺えると思います。お体の具合が

よろしければ奥様もおいでになりま  
す。

昨年は新藤監督と五人の方が車座に  
なつて語り合い、とてもいいお話を相  
互に聞かせていただきました。今年も  
同様に鈴木監督と語り合っていただ  
方を募ります。お申し出ください。ま  
た三基目の完成で、法要の形がこれま  
でと大きく変わります。昨年の要望を  
取り入れて、皆さんも法要に参加いた  
だくことを検討中です。音楽もいつも  
の太鼓と琴をお休みし、南米ペルーの  
民族音楽が哀調こもる音色を奏しま  
す。法要の時間帯も遅らせませす。

すでに問い合わせもあり、昨年以上  
の参加が予想されます。詳しくはパン  
フレットご覧のうえ、早めのお申込お  
願いします。

## 年会費、献灯お願ひします

今年度分の年会費三千五百円をお願い  
します(三基目お申込の方は来年から  
です)。同封の振り替え用紙で、お近  
くの郵便局からご送金ください。

フェスティバル安穩の法要の際、安  
穩廟の周囲で灯す大ロウソクの献灯に  
ご協力ください。毎年百本以上並びま  
す。一本五千円、一本毎にお名前を入  
れて灯します。会費のご送金と一緒で  
も結構ですが、その旨通信欄にご記入  
ください。



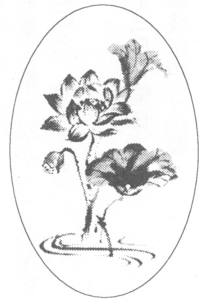
昨年のフェスティバル安穩  
パーティー風景

## 本堂立て替え工事について

妙光寺では老朽化した本堂の建て  
替えを、二三十年ぶりに計画しま  
した。全檀家挙げて取り組む大事業  
ですが、膨大な経費を要し、必ず実  
現できるといふ見通しも立っていま  
せん。安穩会員の方々に寄付をお願  
いする筋でないことは住職、役員一  
同重々承知しています。さりとして決  
して多くない檀家では大変厳しい状  
況です。もしご事情が許される方に  
は、お志しお力添えいただければ幸  
いと存じます。

甚だ勝手ながら後日、趣意書と申  
込書を全会員宛お送りさせていただきます。  
ご協力はまったくの自由意  
志ですので、決してご負担に感じる  
ことなきようくれぐれもご理解願  
います。

## 更年期障害？



気が付いたら、この寺庭からという

欄も二十回を越えてしまったようです。その時の気分できりめのないことを書くばかりでしたが、読んで下さった後で、感想やら励ましのお手紙をいただいで、いつも本当に嬉しく幸せに思っていました。ありがとうございます。

当時まだ小さかった娘たちも、長女は中学生になり、月日の経つはやさに驚いています。

自分自身にも体力や気力の衰えを感じたり、最近はどうも体調がすぐれず、早くも更年期障害かしら？なんて思うほどです。そんな時は何をやってもうまい具合にいかなくなったり、記憶力もおちて、なんだか毎日薄ぼんやりと

暮らしてしまいます。

草取りも犬の散歩も、汚れている部屋の掃除もできなくて、運動不足で体はむくむし、そのことがいつそうのストレスになって、最悪このまま死んでしまうのではないだろうか…なんて馬鹿げたことまで考えてしまいました。

閉め切った部屋のなかで、蒲団にくるまり、もし自分の命があとどのくらいと決められていたらどうだろうかと、思ってみました。そんな時、考えるのは子ども世話がこまるとか、たくさん動物たちをどうしよう、お寺の留守番や行事の心配などで、あまり自分自身の生き方に触れるような事は思いつきませんでした。きっとこれが母であり、妻であることなのかなという

気もしますが、あまりこの世に執着がないのか、あきらめの気持ちなのか、悔いがないのか、なんでしょうね。

今は、徐々に体調も回復してあんなに落ち込んでいたことなどどうそのようになりましたが、時々自分が消えてしまう事を考えるのは役に立つと思えました。改めて今の生活をありがたいと思えますし、やっておかなければならぬことも見えてきました。

そんなわけで、今までのことをしみじみお札を言わなくては、と思つた次第です。あと五年もしたら今回の文はまったくばかげていたと笑つてしまうことでしょう。

毎日の暮らしに疲れ、いつもいつも人のために生きていくだけじゃないかと、半ばやけくそに過ごしていたのが、実は悔いのない人生を送る事につながっているのではないかと、そう思えたこの初夏の出来事でした。

(小川なぎさ)

# 行事案内

七月六日～十五日

## 東京方面お盆経

住職が新盆のお宅、法事の約束のお宅を中心にお伺いします。回りにくいいため半分のお宅は秋のお彼岸に。

八月一日(金)

## お盆墓参り、施餓鬼法要

午前五時半 墓お経受付開始

〃 十時半 安穩廟法要

〃 十一時 施餓鬼法要

昼 十二時 おとき

午後一時 説教

八月十三日～十六日

## お盆棚経

例年通り住職と鎌田、それにお手伝いのお上人が手分けして全檀家に

伺います。何日か知りたい方は、十日過ぎにお問い合わせて下さい。新潟地区は早目になるかと思えます。その場合は直接ご連絡します。

八月十九日(火)

## 岩屋七面宮祭礼

午前十時半 本堂で法要、お加持

岩屋へ移動、法要

昼十二時 参詣者に赤飯供養

午後一時 説教

八月二十三、二十四日(土、日)

## 第八回フェスティバル安穩

安穩廟の供養祭。詳細はパンフで。

九月期日未定

## 東京方面お彼岸経

住職がお盆に伺えなかったお宅に直接ご連絡の上、参ります。

九月二十三日(祭日)

## 秋のお彼岸中日法要

あ  
と  
が  
き



昨年までの大忙しはどこへやら、近頃めっきり暇になりました。十年以上関わってきた教団本部の現代宗教研究所も、所長交代で仕事が減り上京の機会が減少。時代の流れか不況のせいかわらぬ妙光寺への団体参拝もさっぱり。なによりも檀家の法事がやけに少な目です。

法事が少ないのは終戦後亡くなる人が減って、年忌に当たる精霊が少ない上に、皆さんまとめて法事をするから余計に減少する、らしいのです。

こうなると心配になるのはあちらの方。経理担当の妻は「なんとかなるわよ」と、いたって呑気。

ここに飛び込んできたのが毎日新聞社からの原稿依頼。この秋から毎週一回、一年間の長期連載で、東日本地域での掲載とのこと。初めてのことで不安ですが、お受けしました。(小川記)

妙光寺史話はお休みです。